



土着天敵を用いた雨よけピーマン類の害虫防除

表1 防除履歴

	総合防除区	薬剤防除区
4月15日	アクタラ顆粒水溶剤 ^{*1}	アクタラ顆粒水溶剤 ^{*1}
4月24日		アクタラ粒剤5
4月28日	バンカー設置 ^{*2}	
6月5日		アーデント水和剤
6月11日	チェス水和剤	チェス水和剤
6月23日	キイカブリダニ	
7月7日	ミヤコカブリダニ、ショクガタマバエ	
7月17日	ゼンターリ顆粒水和剤	ダニトロンフロアブル
7月30日		スタークル顆粒水溶剤
7月30日		アーデント水和剤
8月7日	ショクガタマバエ	
8月21日	ゼンターリ顆粒水和剤	
8月25日		サンマイトフロアブル
9月18日		スタークル顆粒水溶剤
10月1日		ベストガード水溶剤
10月13日	チェス水和剤	
10月23日		サンマイトフロアブル

*1 4/15のアクタラは育苗期、4/24のアクタラは定植時植穴処理したものです。

*2 大麦を(播種:4/28、播種量 20ml)4カ所に播種し、クサキイロアザミウマを5/21、6/4にそれぞれ100頭/バンカー、キイカブリダニを6/23に20頭/バンカー放飼しました。

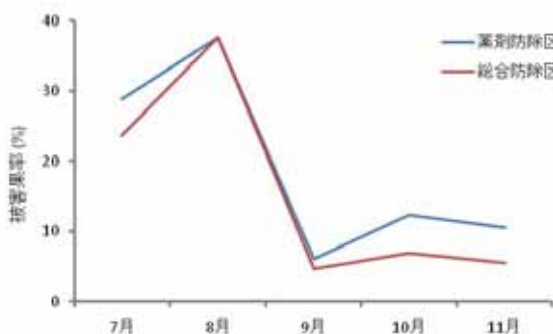


図1 アザミウマ類の被害果率

注) 果実にわずかでも被害があったものを含んでいます。

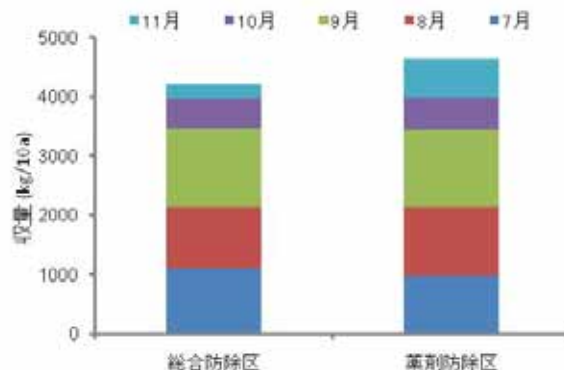


図2 パプリカの可販果収量

雨よけピーマン類において、バンカー法によるキイカブリダニの利用を中心に土着天敵を活用した総合的な害虫管理技術の確立に取り組んでいます。

雨よけパプリカにおいて、害虫防除にキイカブリダニなどの土着天敵と選択性殺虫剤等を組み合わせて用いる総合防除区と殺虫剤のみを用いる薬剤防除区を設け、化学合成殺虫剤の使用回数、主要害虫のアザミウマ類による被害、収量を比較しました。

両区ともアザミウマ類やコナジラミ類の発生が確認され、薬剤防除区では化学合成殺虫剤を11回使用しました。一方、総合防除区では3回にとどめることができました(表

1)。アザミウマ類による被害があった果実の割合は、薬剤防除区で平均18.7%、総合防除区で16.5%と同等からやや少なくで、その発生推移も同じ傾向でした(図1)。総合防除区ではうどんこ病の影響があり、11月の収量は薬剤防除区よりも少なかったですが、10月までの可販果収量については両区ともほぼ同等でした(図2)。

以上のように、バンカー法によるキイカブリダニの利用など、土着天敵の活用と選択性殺虫剤を組み合わせる総合的な防除体系は有効であると考えられました。

(山間試験室 児玉幸信、0887-72-0058)